

地域ネットワークニュース

～平成30年8月の勉強会のお知らせ & 7月の勉強会報告～

第247回 地域ネットワーク勉強会

引きこもり ～本人へのかかわり方と家族にできること～

講師：茨城県精神保健福祉センター 相談援助課 主任 川崎智佳氏

8月20日(月)

午後2時～4時

神栖市保健・福祉会館
別館2階 健康相談室

「引きこもり」とは、厚生労働省の定義などを参考にすると、学校や仕事に行かずに、家族以外との親密な対人関係がほとんどない状態が6ヶ月以上続いていることを指し、全国で約70万人の方が引きこもり状態にあると言われています。

家から外出しなくなる、笑顔がなくなる、家族との会話がなくなるなど、当事者が徐々に社会との接点が少なくなる中、家族も何とかしたいと思いつつも、当事者に対してできることがわからないまま、時間だけが過ぎてしまっていることがあります。

茨城県精神保健福祉センターは、ひきこもり相談支援センターを開設し、県内の引きこもり当事者と、そのご家族からの相談に応じています。当事者自身の状態に変化がなく、様々な支援を受けたとしても期待した成果が得られないとすぐに諦めてしまいがちですが、当事者への適切な対応についてアドバイスしてもらい、家族のかかわり方が変わるだけで、状況が好転することもあります。



勉強会では、引きこもりとなってしまう背景やその特徴、相談対応時にしているアドバイスの事例、家族や支援者による当事者へのかかわりのポイントなどについてお話いただきます。

引きこもりの方への支援に関心のある方々の参加をお待ちしています。

会場内には情報提供・紹介コーナーを設けています。福祉や医療に関する事業所等のパンフレットやチラシ、研修会のご案内など、配布、展示いたします。当日のご持参でもかまいません。みなさまからの情報をお待ちしています。申込・問合せ先 神栖市社協 地域福祉推進センター 担当 名雪・鴨川 電話 0299-93-0294

第246回 地域ネットワーク勉強会報告

7月23日開催 参加者30名

脳血管障害やけが等による 《高次脳機能障害》
障害の特性と支援センターの取り組みについて

講師：山中俊広氏（支援コーディネーター）
茨城県高次脳機能障害支援センター



高次脳機能障害は、脳血管障害や交通事故などにより脳がダメージを受けることで、記憶や注意、行動、感情などの機能に障害が残る状態です。

症状によりませんが、適切な訓練や支援を受けることで、徐々に改善する可能性が高まります。

相手の特性に合わせた声かけや生活しやすい環境を整えることで、障害は少しずつ回復していきます、安定した生活に繋がっていきます。そのためには、家族や支援者など周囲の人が、障害の特性を理解し、本人のペースに合わせた関わりが大切になります。

山中さんは「高次脳機能障害を抱える方が安心して地域生活を送れるよう、支援機関と顔の見える関係を作り、支援経験や連携を深めながら支援のムードを高めたい」と締めくくりました。